

喜多方に行くことがある。目的のほとんどが、ラーメンである。喜多方ラーメンが好きである。自分の好みに合っている。そう思っている。喜多方ラーメンは、日本三大ラーメンの一つに数えられるほどである。

以前、よく行っていたお店がある。大行列になるようなお店ではないが、正統派の喜多方ラーメンを提供してくれる貴重な存在だった。ところが、このところずっと行っていない。なぜなら、いつ行っても開いていないのである。かといって閉店したようにも見えない。行くのは週末の休日である。もしかしたら平日は開いているのかもしれない。いや、そうも思えない。

この前、コラッセふくしまの1階にある福島県観光物産館に行った。ここには、福島県のお土産、特産、名産のすべてがそろっている。わざわざ現地まで行かなくても買うことができってしまう。この日は、期間限定で出店している喜多方ラーメンを食べるために出かけた。そのお店は、いつも閉まっているあのお店だった。以前のようにチャーシューメンをオーダーした。ご主人がお一人で切り盛りしていた。出来上がり、受け取る時に聞いてみた。「喜多方のお店はやっていないのですか」

そうしたら、大変なことになってしまった。ご主人が語り出したのである。どうやら、喜多方ラーメンをPRするために全国各地に出かけているとのことだった。一度、出かけると10日は帰ってこないため、喜多方のお店は閉めるしかないようだった。そうはしたくないのだが、頼まれるから仕方がないとの口ぶりだった。誰もやりたがらないそうである。他の家の台所を借りてお店を出すわけである。みんな自分の台所がいいのである。

このままでは、麺が伸びてしまう。いったん話を切り、実に久しぶりに王道の喜多方ラーメンを味わった。井を返しにいったら、ご主人がまた語り出した。よっぽどしゃべりたかったらしい。喜多方のお店がどんどん減っていることを憂いていた。その一方で、若手が出てきてお店を出していくのはいい。だが、正統派の喜多方ラーメンではない。そのことも気にかけていた。

私も同感である。喜多方に新しいお店が増えていくのはいい。それぞれ工夫を凝らしている。美味しいのも確かである。だが、昔ながらの正統派の喜多方ラーメンを食べたい。そういったお店がどんどんなくなっている。喜多方らしい喜多方ラーメンがいい。

いつも閉まっている喜多方のお店だが、これからも、もしかしたら開いているかもしれないという淡い期待を抱きながら、お店の前を通ることにしよう。あのご主人なら、美味しい正統派の喜多方ラーメンをつくってくれるはずである。